

臨床心理査定演習I(心理的アセスメントに関する理論と実践)

Seminar on Psychological Assessment I (Theory and Practice of Psychological Assessment)



ナンバリングコード	GCP-AAA1103		
開設年度	2023	開設部局	臨床心理学研究科
学科・プログラム等			
学期	前期	学年	1年
曜日	火 集中	時限	2限 不定
履修期		授業形態	演習
科目区分	必修	単位数	2単位
対面／遠隔	対面授業	授業回数	15回

■担当教員

中原睦美

■共同担当教員

吉岡和子

■授業概要

心理アセスメントには観察法、面接法および心理検査法がある。これらを踏まえ、まず概論として臨床心理学及び公認心理師の実践に心理アセスメントの位置づけや意義、導入する際の心構えについて学習する(公認心理師到達目標1)。次いで、臨床心理学及び公認心理師の実践における心理アセスメントに関する理論と方法論について学習する(公認心理師到達目標2)。さらに、具体的な事例を用いて、代表的な手法の実施法や解釈法に取り組む。とりわけ知能検査法や投射法等を重点的に取り上げ、施行法から解釈、フィードバックのあり方について学習する。本演習では、テスト・テスター体験を導入して体験的に学んでいく。さらには、心理支援における心理に関する相談、助言、指導等に際して、心理アセスメントをどのように活用していくかの基本的な姿勢を学習する(公認心理到達目標3)。

なお、全授業を対面形式で実施する。ただし、さらなる新型コロナウイルス対策が必要となった場合は、遠隔形式(リアルタイムZoom)で実施する。

■学修目標

心理専門職である臨床心理士や公認心理師に必須の心理アセスメントに関する基本的な理論や技法、解釈の視点を理解できるようにする。特に、ウエクスラー式知能検査、描画における樹木画テスト、SCT、そしてロールシャッハ法については、テスト体験の後、自ら実施できるスキルを身に着ける。

■授業計画

《第1回》受講生の入学までの学習状況を把握した上で、授業のガイダンスを行う。次いで、テスト体験の有用性はじめ、臨床訓練や心理アセスメントを導入する際の専門家としての基本的姿勢を学習する。テスト体験の割り振りを行う。また、テスト体験の一環として、コッホ法によるバウムテストを体験実習し、体験内容を記載し提出する。自らのSCTを次回までの課題とする。【対面】

《第2回》心理アセスメントにおける観察法、面接法及び心理検査法を学習し、統合的な見方を学習する。第1回目に実施したバウムテスト及び宿題で課したSCTIについて、各々の種類や実施法の違い、特徴や解釈の視点について学習する。具体的な事例を用いながら、テスターとしての姿勢のあり方や基本的な解釈を学習し、バウムテスト及びSCTの背景にある臨床心理学的な人間理解のあり方を学習する。【対面】

《第3回》高齢者の心理に関する講義の後、高齢期の対象者に導入される心理検査の基本的な種類や配慮のあり方について講義形式で学習する。その後、スクリーニング・テストとして代表的なHDS-R及びMMSE-J、改訂日本版Moca-J等について体験実習を通して学習し、その特徴や実施に際しての留意点、所見を書く際の留意点について学習する。レポート課題を課す。【対面】

《第4回》知能検査の歴史や概要を学習し、ウエクスラー式の実施法、結果や所見のポイントについて講義形式で学習する。その後、実際の知能検査器具を用いて、各設問の実施法を体験的に学習し、今後の心理臨床の実践につなげる。まず、心理検査の意義や心理検査を導入するにあたっての留意事項について確認し、心理支援につながる心理アセスメントのあり方について学習する。特に、臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理や研究倫理における心理検査のあり方や取扱いなどに関する学習を通して、心理アセスメントを実施する責任性を培う。【対面】

《第5回》投映法の持つ意味について、投映法からなぜ内的世界が推察できるのかという理論的成り立ちを講義形式で学習し、特にロールシャッハ法の意義や歴史、概要について学習する。さらに、投映法の種類や投映水準の相違、基本的なテスト・バッテリーの考え方などを学習する。【対面】

《第6回》テスター体験に向け、名大式技法におけるロールシャッハ法の実施法について学習する。まず、講義形式で学習し、その後、二人組になってロールシャッハ法の導入から自由反応段階、質疑段階、限界吟味までをロールプレイで学習する。その後、疑問点などを質疑応答を通して吸い上げ、実施法の理解を深化させる。【対面】

《第7回》ロールシャッハ法名大式技法における、スコアリング(領域・決定因・形態水準・反応内容・平凡反応・感情カテゴリー)の意味と方法について学習する。ここでは、各々のスコアの意味について体系的に学習し、カテゴリー間の有機的な関連性について講義を通して理解した上で、blankシートへの記入方法を学習する。【対面】

《第8回》第7回での学習をもとに、実習用のロールシャッハ事例を用いて、グループでスコアリング実習を行い、相互に提示することを通して、スコアリングの実際や迷われるケースに対する対応の仕方などを学習する。課題1-1として自分のローデータのスコアリングを課題として課す。【対面】

《第9回》名大式技法におけるスコアリング結果の計算方法を学習し、第8回で用いた実習用の事例を通して、グループで体験的に実習する。さらに、数値化したものがどのような心理臨床の意味を持つのかについて、講義形式で理解していく。課題1-2として自分のローデータの計算を課す。これにより、スコアリング及び計算方法の理解度を把握し、学習を深化させる。【対面】

《第10回》ロールシャッハ法の「量的(形式)分析」の名大式技法における実際を講義形式で学習する。ついで、第8回で用いた実習用ロールシャッハ事例を用いて、量的数値の意味を学習し、知的側面、情意的側面、対人関係の側面について各々分析の仕方や着眼点について学習する。【対面】

《第11回》第10回に引き続き、第8回で用いた実習用ロールシャッハ事例を用いて、量的数値の解釈をグループ発表し、質疑応答を通して、量的数値の意味を学習し、知的側面、情意的側面、対人関係の側面について各々分析の仕方や着眼点について学習する。【対面】

《第12回》第11回に引き続き、「ロールシャッハ法の「量的(形式)分析」について、実践的に学習する。実習用ロールシャッハ事例を用いて、量的(形式)分析をグループで実習し発表する。知的側面、情意的側面、対人関係の側面に加え、量的(形式)分析のまとめの視点について学習する。ここまでの学習により、ロールシャッハ法における前期目標における解釈の最低限の方法を学習する。継起・系列分析のあり方について概説により学習する。【対面】

《第13回》第12回に引き続き、ロールシャッハ法によるパーソナリティー理解をさらに深めるために、「継起・継列分析」のあり方について学ぶ。まず、各カードの特徴や継起・継列分析における観点について講義形式で学習した後、実習用の事例を用いてグループで継起・継列分析を実習する。【対面】

《第14回》第13回の「継起・継列分析」について実習用のロールシャッハ事例を元に、各カードの解釈を実習したものを発表し、カードごとの解釈に加え、全カードについて系列的に解釈していく視点を、具体的事例を用いながら学習する。発表を通して、自分の読み取りと他者との照合を行うことで、事例の立体的理解を目指す。さらに、量的分析を基盤に継起・継列分析から読みとれる特徴や相違を学習し、ロールシャッハ法を通して立体的に理解し、フィードバックする力を身につける。【対面】

《第15回》これまでに取り上げてきた心理検査のそれぞれの持ち味について確認し、基本的な理解がどうかについて授業内試験を行う。スコアリング、量的分析、継起(継列)分析の一部、テスト・バッテリーの組み方、高齢者の心理検査についての留意点について確認することを目的に授業内試験を行う。別途、課題としてテスター体験実習及び事例の解釈レポート(WAIS, バウムテスト, SCT, ロールシャッハ法)を課す。

《第16回》別途の期末試験は課さない。テスター体験の解釈レポートを最終レポートとして課す。

■授業方法

アクティブラーニング

■準備学修に必要な学修時間の目安

本科目は、90時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30時間分(2h×15コマ)となるため、60時間分相当の事前・事後学修(課題等含む)が、授業の理解を深めるために必要となる。

■教科書

名古屋ロールシャッハ研究会編『ロールシャッハ法解説:名古屋大学式技法』金子書房

(一括購入します)2018年

『バウムテスト大3版—心理的見立ての補助手段としてのバウム画研究』誠信書房(研究科共有貸出書籍あり)2010年

『精研式文章完成法テスト解説—成人用』金子書房(研究科共有貸出書籍あり)1972年

その他, 必要な資料を随時, 配布します。

■参考書

Hロールシャッハ(鈴木睦夫訳)『新・完訳精神診断学:付 形態解釈実験の活用』金子書房 1998年

馬場禮子『改訂 ロールシャッハ法と精神分析:継列分析入門』岩崎学術出版社 1995年

氏原寛他編『心理査定実践ハンドブック』創元社2006年

山口智子編『老いのこころと寄り添うこころ』遠見書房 2017年

高橋依子『描画テスト』北大路書房 2011年

その他, 必要に応じて適宜, 紹介します。

■成績評価方法・評価基準

受講態度(討議における積極性は高く評価する; 予習傾向を含む):30%

テスト体験, スコアリング等の課題:30%

テスター体験, 事例の解題:40%

上記を元に, 総合的に評価する。

■オフィスアワー

金曜日14時30分~16時

■連絡先(TEL)

099-285-7537

■連絡先(MAIL)

nakahara@leh.kagoshima-u.ac.jp

■担当教員への連絡方法

nakahara@leh.kagoshima-u.ac.jp

■履修条件

臨床心理学研究科在籍生に限定する

■実務経験のある教員による実践的授業

医療領域, 教育領域において幅広い年齢及び相談内容について臨床心理士・公認心理師としての実践経験・研究経験のある教員により, その経験に基づいた教材を作成・選定し, 心理支援における心理査定のスキルや姿勢を指導する。

■備考

* 医療領域, 教育領域において幅広い年齢及び相談内容について臨床心理士・公認心理師としての実践経験・研究経験のある教員により, その経験に基づいた教材を作成・選定し, 心理支援における心理査定のスキルや姿勢を指導する。

* 授業形態(対面・遠隔)については, 可能な限り対面授業を行うが, COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の影響, その他の理由により変更する場合がある。

* 演習形式の授業であるため, 遅刻・欠席は厳禁とする。

* 授業進行状況によっては, 内容の順番を変更することがある。

* 心理アセスメント技法の定着を図る目的で, 外部専門機関でのロールシャッハ法に関する有料のテスト体験実習を例年に合わせて実施する。

* COVID-19(新型コロナウイルス)の影響のため, 例年, 課してきた実習課題等が夏休み期間にずれ込む可能性がある。

